

令和7年度 第1回 鳥取市総合企画委員会

日 時 令和7年4月15日（火）13：30～15：30

場 所 鳥取市役所本庁舎6階 会議室6－5～6－8

出席委員 石本昭雄委員、大橋祥子委員、岡大輔委員、奥谷仁美委員、尾坂亮委員、
神田浩史委員、岸本夕子委員、久野壯委員、佐藤翔風委員、下田敏美委員、
竹本哲哉委員、田中丈士委員、林由紀子委員、前岡美華子委員、山下浩二
委員、山根滋子委員、吉田高文委員、米田恵子委員

欠席委員 田中利明委員、平井耕司委員

鳥 取 市 市長・副市長ほか関係部局長、政策企画課、地方創生推進室（事務局）

<議事概要>

1. 開会

2. 市長あいさつ

【深澤市長】

本日は、大変お忙しい中、本年度第1回の総合企画委員会に御出席いただき感謝申し上げます。委員の皆様には、日頃より鳥取市政の推進に格別なる御理解、御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

今年度は、令和3年度に策定した、第11次総合計画と第2期創生総合戦略が最終年度であり仕上げの年となる。現在の総合計画、また総合戦略に位置づけている様々な取組が最終年度ということで、鳥取市一丸となって、これからも取り組んでいきたいと思っている。委員の皆様には、今後もお力添え賜りますようよろしくお願い申し上げます。

これまで委員の皆様には、約1年間にわたり、次期総合計画の策定に向けて、様々な御意見をいただいていた。市民の皆様にも分かりやすい総合計画にしていくべきではないかという御意見もいただいております、見開き2ページで、さっと見て分かりやすいといったことにも意を用い、このたび第12次総合計画基本構想のたたき台、また人口ビジョンたたき台を作成した。本日は、これらのたたき台について、忌憚のない御意見を賜りたいと考えている。

御承知のように、今、なかなか先行きが見えづらいといった状況にあるが、鳥取市にお

いては明るい未来をこれから切り開いていく計画にしたいと思っているため、どうかよろしくお願い申し上げます。

3. 委員長挨拶

【林委員長】

今年度第1回の委員会となり、年度初めの大変お忙しい中御出席いただき、感謝申し上げます。

先ほど深澤市長さんから計画への思いをお話しいただいた。分かりやすい計画、明るい未来を見通せる計画として次期総合計画を策定するため、これまで1年にわたり皆様に御議論を重ねていただき、様々な意見を頂戴してきた。本日は、次第にあるとおり、次期総合計画のたたき台、人口ビジョンのたたき台をお示しいただける。この計画は市民の皆さんにとっても分かりやすい計画ということで、前計画からの表現なども工夫されている。

皆様からたくさんの御意見をいただければと思うので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

4. 議事

(1) 第12次鳥取市総合計画基本構想（たたき台）について

【西田地方創生推進室長】

資料1の令和6年度第4回鳥取市総合企画委員会委員意見という資料を御覧いただきたい。前回1月9日の、総合企画委員会で委員の皆様からいただいた御意見の中で、総合計画に関するものについて、対応方針を整理した。基本構想、人口ビジョンに関するものについては、この後たたき台の中で説明する。また、基本計画や評価に関することについては、今後策定をしていく中で反映したいと考えている。

資料2-1を御覧いただきたい。前回の総合企画委員会から基本構想の構成を少し修正しており、その比較表になっている。委員の皆様の御意見を反映した修正と、再度内部で構想の流れを検討した結果、順番等も修正させていただいている。

右側の修正案を見ていただくと、「3. 鳥取市の10年後をどうする？」と修正している。初めは「鳥取市の10年後はどうなるんだろう」という表現にしていたが、少し受け身、他人事のように捉えられるという委員の意見を受けて、「10年後をどうする？」という表現に修正した。

「3. (9) まちづくりを支える都市のかたち」について、前回の総合企画委員会においては、「2. 鳥取市ってどんなまち？(4) 都市のすがた」としていたが、鳥取市の10年後をどうする？に移動した。また、都市のすがたの「都市」という表現が、これまで鳥取市としてまちづくりという「まち」という表現を使っているという中で、「まちのすがた」にしてはどうかという御意見もいただき、結果、都市の形態を表す「都市のかたち」という表現に変え、なおかつ「まち」という言葉を使い、「まちづくりを支える」という言葉を前に置き、「まちづくりを支える都市のかたち」に変えさせていただいた。

資料2-2基本構想のたたき台を御覧いただきたい。前回の委員会でお示した骨子を基に、委員の皆様からの御意見も踏まえ、たたき台を作成した。本日は事前に資料をお配りしているため、ポイントを絞って御説明させていただく。

それでは、1ページの策定の趣旨についてご覧いただきたい。ここについては、下の5行目から、本市が持続的に発展していくためには、市民や企業、団体など、鳥取市に暮らす皆の力を合わせ、オール鳥取市でまちづくりに取り組んでいく必要があるということを書かせていただいている。また、まちづくりの主役は皆さん一人ひとりですと、鳥取市の明るい未来を描き、その実現に向けて、みんなで行動していくための方向性を示す計画として、第12次鳥取市総合計画を策定するということにさせていただいている。まちづくりはみんなで取り組んでいくというものであるというメッセージを含んだものとさせていただいている。

次のページを御覧いただきたい。鳥取市ってどんなまち？というところで、まずは本市の歩みと特徴について、ここで紹介させていただいている。

続いて、4ページの鳥取市の現状について、人口動態や財政に関して、10年前の数字と今の数字を比較して、イラストも交え、分かりやすく示している。

5ページでは、鳥取市の特徴として、人口30万人未満の中核市を類似自治体とし、レーダーチャートを使って20の指標について偏差値で示している。鳥取市の強みや弱みを示そうということで作成している。

6ページをご覧いただきたい。昨年度実施した市民アンケートの結果から、誇りに思うこと、住みやすさの満足度、まちづくりの重要度について、上位3項目を前回の順位と比較して示している。

その次のページ、同じくアンケートでまちづくりの重要度と満足度をマトリックスの図で示している。満足度が低い重要度の高い項目が右上の部分で、これを重点改善分野と

して、優先的に取り組む必要がある分野として位置づけている。

次のページをご覧ください。この8、9ページについては、まちづくりに取り組んでいく前提として、時代の潮流、また現状の課題などを示すものである。前回の総合企画委員会においてお示しした8つの時代の潮流について、項目名や内容を整理し、それぞれ求められる取組やテーマを黄色の塗り潰しのところにまとめさせていただいている。ここに記載した求められる取組やテーマについては、今後策定をしていく基本計画の各施策の中で、課題や施策の方向性として示されるものとなる。

続いて、10ページをご覧ください。まちづくりの基本的な考え方としているが、まず、ページの上半分のところで、アンケートやワークショップ等からの市民の御意見を踏まえ、鳥取市のありたい姿として、吹き出して囲んでいる4つの項目に集約し、これらのことを踏まえたうえで、下半分の文章では、これから求められるまちづくりに対する姿勢や方向性を示している。これにより、次のページ以降のまちづくりの理念やめざす将来像の設定につなげていこうというものである。

次のページのまちづくりの理念については、委員から若者や子どもの活躍をしっかり後押しすることを意味する「挑戦」という言葉を最初に持ってきてはどうかという御意見を前回の委員会でいただいた。それを踏まえ、挑戦・協働・共生・誇りと順番を変えさせていただいている。

また、その下のめざす将来像については、前回の委員会から修正していないが、下から4行目に、鳥取市らしさを表現するため、鳥取市を代表する美しい雄大な鳥取砂丘など、自然に囲まれて暮らす様子や、砂丘のオアシスにひと・もの・ことが行きかい、にぎわう様子が連想でき、めざす将来像を補完するものとして、そのイメージを伝えるためのキャッチフレーズとして設定したいということを入れさせていただいている。

12、13ページについては、めざす将来像の実現に向けて、4つのまちづくりの目標、そしてそれらを推進する11の政策を設定している。

まず、1つ目の目標について「ひとりひとりが活躍するまち」ということで、その中の政策として、「こども、教育・スポーツ」とあるが、これについては、子育てしやすいまちづくりや、市民がいいきと活躍できるまちづくりを進めるということを書かせていただいている。

その下2つ目の、「誰もが自分らしく暮らし続けることができる、持続可能な地域共生のまち」、政策としては、「福祉、保健・医療、人権・共生・協働」としている。これに

については、市民の健康保持増進に取り組み、一人ひとりの人権を尊重し、互いに支え合う社会の実現を進めるということを書かせていただいている。

右側の3つ目について、「ひと・もの・ことが行きかい、にぎわいあふれるまち」ということで、政策としては、「商工業・農林水産業、移住定住・関係人口・観光、文化芸術・文化財、生活基盤・市街地・中山間地域・交通」としている。地域経済の活性化を図るとともに、地域資源の魅力を最大限にいかしたまちづくりや生活基盤等の整備を進めるということを書かせていただいている。

4つ目に「豊かな自然と調和して、安全・安心に暮らせるまち」とし、政策としては、「防災・防犯、環境」としている。暮らしの安全・安心を守る取組や、自然環境の保全や循環型社会の構築を通じて、ゼロカーボンシティの実現を進めていくことを書かせていただいている。

その下、計画推進における基本方針として、めざす将来像の実現に向けて、自立した市政運営の基礎になる方針を4つ記載させていただいている。協働・連携の推進、スマートシティの推進、効率的な行財政運営、戦略的な自治体経営の推進としている。

次いで、15ページを御覧いただきたい。「まちづくりを支える都市のかたち」として、市民生活を支える都市機能の維持・充実のために、中心市街地や地域生活拠点を公共交通ネットワークで結ぶという多極ネットワーク型コンパクトシティの実現を目指していくことを示している。

続いて、16ページをご覧いただきたい。構成及び期間の中で、総合計画は、基本構想、基本計画、アクションプランで構成するとしている。この総合計画の構成については、この後御説明する基本計画と創生総合戦略の概要のところで御協議いただくため、ここでは省略させていただく。

続いて、18ページを御覧いただきたい。総合計画の体系図について、基本構想と基本計画を含めた体系を示している。基本計画を構成する基本施策については、現行の第11次総合計画をベースとし、今の時代に即した表現に修正するなど、31の施策にまとめさせていただいている。各施策の内容については、今後筆耕作業に取り組み、作成する予定である。

1か所誤字があり、真ん中の計画推進における基本方針の左から3つ目が、左から1つ目と同じ「協働・連携の推進」となっているが、正しくは「効率的な行財政運営」となるため、修正をお願いしたい。

また、19ページ以降は、基本構想で示している統計データや、アンケートの結果等の詳細な内容を補足するために、資料編を設けることとしている。どういう資料を掲載するかについてはまだ精査中である。

最後に、本日の当日資料としてお配りした当日資料1をご覧ください。委員の皆様から事前に意見をお伺いした中で、尾坂委員さんから御意見をいただいている。内容としては、鳥取市について、市民、特に子育て世代が最も誇りに思っているのが、海、山、川などの恵まれた自然環境だ、評価されている割に登場回数が少ないが、これこそが地域資源であり、どう具体的に活用するかをこの総合計画の中に厚く盛り込みたいということで、以下には具体的な活用の例を挙げていただいている。

その対応として、アンケートにおいて鳥取市について誇りに思うことの第1位が、海、山、川などの恵まれた自然環境ということは認識している。こうした御意見も踏まえ、第12次総合計画基本構想の中には、「鳥取市固有の資源が大切にされ、引き継がれ、活用されていること」をまちづくりの基本的な考え方の一つとして設定した。地域資源をいかした各施策の具体的な取組について、次回以降、本委員会でご議論いただく予定としている。

具体的な取組については、基本計画、アクションプラン（総合戦略）で盛り込んでいくことを予定しており、いただいた御意見について、具体的な例も挙げていただいているため、そういったことも踏まえながら検討を進めていきたいと考えている。また、様々な施策で地域資源の活用を図っていくということが重要だと考えているため、アクションプラン（総合戦略）において、分野横断的に取り組んでいくことも考えている。

○議題1について質疑応答

【久野委員】

非常に分かりやすくなったなと思って、読ませてもらった。8、9ページに10年後をどうする？とあるが、農村地域、中山間地域では、ちょうどこれから田植が始まる時期で、最近米がないかとかなり問い合わせが入ってくる。また、放棄地が広がっているため、田んぼをつくらないかというような声も入ってくるが、準備が必要なためいきなりはできない。10年後、農村地域はどうなるのかと感じ、そこについて気にしていただけるなら、例えば9ページ⑤の求められる取組やテーマに、放棄地の減少・解消などの観点もお願いしたいと思う。

もう1点、10ページの左上の四角に、しがらみにとらわれずのびのび暮らしたい、とあるが、ということなのか少し疑問に思った。地域活動、自治会などに関わっているが、29ページにあるように、自治会やサークルなどの地域の活動や祭りなどの地域の行事の重要度が一番低いところにある。コロナの影響で地域の活動や行事、公民館活動が減ったり停滞したり、さらにはやり方が分からなくなっている。生活していればある程度のしがらみはあって当然だと思うし、好き勝手にすれば社会や地域が成り立たなくなる。

【西田地方創生推進室長】

まず、時代の潮流の中の⑤のについて、求められる取組やテーマに耕作放棄地の減少とこのようなことを入れたらどうかという御意見があった。

この時代の潮流については、大きく8項目に分けさせていただいている。求められる取組やテーマについては、全て網羅できているというわけではないが、ここに記載しているもの以外のものも含め、これから策定していく31の基本施策の中にそれぞれ入れていくというふうに考えている。また、求められる取組やテーマについては、もう少し検討の余地があると考えているため、いただいた御意見を盛り込むことも検討させていただけたらと思う。

その次のページの、しがらみにとらわれずのびのび暮らしたいという、この「しがらみにとらわれず」という表現だが、アンケートやワークショップでいただいた御意見等を踏まえ、一人ひとりの個性が尊重され、自分らしく過ごすことができること、とまとめている。色々なしがらみがありながら、それにとらわれずにのびのび暮らしたいということでもまとめているが、このまとめ方について少し分かりづらい、しがらみにとらわれずという表現が少し伝わりづらいと御意見をいただいたということで、この表現についても今後修正も検討させていただきたいと思っている。

【尾坂委員】

久野さんのお話にすごく共感するところがある。最近、長男が小学校に入学したとともに地域の集まりに参加する機会が増え、やはり地域活動は一部では少し面倒なところもありつつ、これからもっと重要視されていくべきところかなと思う。7ページでは、それぞれの満足度と重要度で項目が割り振られて、やはり重点改善分野をまず何とかしたいなと思うと同時に、その対極にある維持分野、満足度は高いけれど、さほど重要とされてい

ない項目、その中に地域活動なども多く振り分けられている。例えば、重点改善分野の物価や労働条件については、変えようとしてすぐに変えられるものではないと思うが、維持分野、既にもうある程度は満たされているものの重要度については、例えば市民の方により感じていただけるような、啓蒙等の取り組みをすれば、既にあるもので市民の鳥取市に対する満足度も高められると思う。維持分野をより重要視していただくような内容をうまく盛り込んでいけたらいいのかなと思っている。

【林委員長】

維持分野もとても重要だと。それから、市民の皆さんが、そのことによって満足度が高まるという御意見ということでよいか。

【尾坂委員】

はい。例えばこういった計画をつくるときにも、維持分野の扱いも重点改善分野と同じようにしっかりと伝えられていければと思う。

【西田地方創生推進室長】

この重点改善分野だけに当然取り組むべきものではなく、維持分野は当たり前にあるというような認識も持たれているのかもしれないが、そういったものについてもこの総合計画の中では全て盛り込み、取り組むべきものとして扱っていきたいと考えている。

【田中（丈）委員】

8ページの③について、2行目に、「外国人住民の増加に伴い、社会的ニーズが多様化しています」とあるが、社会的ニーズが多様化という意味が分かりにくいと思う。外国人住民が増加して色々な対応が増えてくることだとは思いますが、わかりづらく感じた。言葉尻を捉えるような意見で誠に申し訳ないが、また御検討していただければと思う。

（2）人口ビジョン改訂案（たたき台）について

【西田地方創生推進室長】

資料3-1をまず御覧いただきたい。令和2年度に改訂した現在の人口ビジョンを直近の統計数値等を更新して分析等を行い、改訂のたたき台としてまとめさせていただいて

いる。改訂箇所については、中身のところで一部御説明させていただこうと思う。

資料３－２がたたき台の本体で、これも事前に資料をお送りしていたため、説明は主要内容と人口の将来展望についてさせていただこうと思っている。

まず、２ページを御覧いただきたい。２ページから４ページにかけては、人口の推移と将来推計を記載している。

３ページを御覧いただきたい。年齢階級別人口の推移と将来推計というところで、ボツの２つ目に、２０２０年（令和２年）に２９．５％であった本市の６５歳以上の老年人口の割合は今後さらに上昇し、２０５５年（令和３７年）には３９．６％でピークに達するという推計が出ている。また、２０２０年（令和２年）に１２．６％であった本市の１４歳までの年少人口と５８．０％であった１５歳から６４歳までの生産年齢人口の割合は今後さらに低下するものと見込まれている。

５ページ、６ページについては、人口の推移と将来推計を記載している。本市は２００７年以降、出生数が死亡数を下回る自然減が続いている。また、転出者数が転入者数を上回る社会減は２００５年から続いているという状況にある。

８ページを御覧いただきたい。ここからは人口動態の分析についてであり、まず婚姻の状況、婚姻件数の状況である。２０１０年代の前半は約９００件程度で推移していたが、２０１０年代の後半以降、減少傾向となっている。また下のグラフ、生涯未婚率については年々増加しており、女性に比べて男性のほうが高い傾向にあるが、近年は女性の増加率が大きくなっているという状況にある。最後のところに書いているが、婚姻件数の減少や生涯未婚率の上昇が出生数の減少の大きな要因になっているものと考えている。

続いて、９ページ、人口移動の状況について御覧いただきたい。男女ともに若い世代が大学を卒業して進学や就職等をする時期に大きな社会減となっている。これに対しては、引き続き学生の市内就職を推進する等の取組が必要と考えている。

１５ページを御覧いただきたい。年齢階級別の社会増減の推移、まずは県内移動について、上が県内への転入転出の状況を表した図、下が表となっている。下の表の合計のところを御覧いただくと、２０２３年までは各年の転入が転出を上回り、本市の県内移動については社会増という状況にあったが、２０２４年は社会減に転じている。また、この下の表の中ほど、水色の網かけをしている２０代、３０代の転入超過が、本市の県内移動においては社会増を牽引している。

続いて、１７ページをご覧いただきたい。年齢階級別の社会増減の推移の県外移動につ

いて、同じく下の表の合計を御覧いただくと、社会減が続いている。表の中ほど、ピンク色の網掛けが20代、水色が30代であり、これまでは主に20代の転出超過が顕著だったが、近年は30代も転出超過の傾向があり、これが社会減の主な要因となっている。

続いて、21ページを御覧いただきたい。外国人の人口動向について人口移動の状況を表している。在留外国人の数は増加傾向にあり、近年は特にインドネシア、ベトナム、フィリピン国籍の方が増加している。これは主に外国人技能実習生の受入れの増加によるものと考えている。

続いて、26ページを御覧いただきたい。ここからが人口の将来展望についてである。まず、昨年度実施した市民アンケート調査の概要として、若者が定住するために有効と思われる取組について伺った結果、回答が多かったものとしては、就職・転職支援、子育て支援の充実、そして企業誘致などが挙げられている。

次のページを御覧いただきたい。性別、年代、子育て状況による違いを分析するためにクロス集計をした結果である。先ほど上位にあった就職・転職支援については、若い世代や子育て世代が全般的に高く、企業誘致については、特に男性の30代や子育て世代、それから子育て支援の充実については、男女とも30代、子育て世代が高くなっているという状況にある。また、中ほどに公共交通機関の充実があるが、これについては、男女とも10代、20代が高いというところで、主には学生が公共交通機関の充実を望んでいると推測をしている。

次のページ、子育てしやすい環境にするためには何が必要なのかという質問について、回答が多いものとして、仕事と子育ての両立できる職場環境、子育てにかかる経済的支援の充実などが挙げられている。

続いて30ページ、人口減少問題に取り組む基本姿勢をご覧いただきたい。本市の人口減少を緩やかにするとともに、人口減少社会の中で持続可能なまちを目指すための視点として3点上げている。

1点目、長期的な視点で少子化へ対応するとしている。

2点目、魅力的な地域づくりで地方に住みたい希望をかなえるとしている。特に転出超過が著しい若者や女性の人口増加対策が、将来の人口構成にも大きな影響を与える最重要課題であるとしている。下のところでは、経済・雇用施策を推進するほか、魅力的な地域資源を生かしたまちづくりを進めることで、若者や女性に選ばれるまちの創出に取り組むということを記載している。

3点目として、オール鳥取市で住んで楽しいまちをつくるとしている。最後のところ、年齢・性別・国籍等にかかわらず、誰もが楽しく、安全・安心に住み続けられる地域共生のまちづくりを推進するということを記載させていただいている。

これらの取組を効果的に推進するために、総合戦略に位置づけをし、施策として展開していきたいと考えている。

32ページを御覧いただきたい。本市の人口の将来展望ということで、1月9日の総合企画委員会でもシミュレーションの結果を御覧いただいたが、将来展望推計について、自然動態、社会動態ともに改善していくということで条件設定している。移住施策等による社会移動を加算するということと、合計特殊出生率については、2035年に1.7、2045年に人口置換水準の2.07を目指したいと考えている。これにより、下の目標人口が、2060年に現在の人口ビジョンの将来展望の14万2,000人、2070年には13万1,000人を維持することを目標として設定したいと考えている。

〇議題2について質疑応答

【久野委員】

鳥取市の人口ビジョンは分かりやすいし、よくできていると思う。ただ、もっと住民も職員もみんなが危機意識を持つ必要があるなと感じる。鳥取市全体での分析なので、なかなかその実態が見えにくいところもあるが、逢坂地区では高齢化率が44%で、当然児童数はものすごく減ってきている。そういった数字も出しながら、当地区のむらづくり協議会でもいろいろ話をしているが、独身男性が多い、女子が出てしまう（転出）など、いろんな課題もある。なかなかいい策はないが、昔みたいに仲人制度をつくるだとか、婚活パーティーをしようかとか、やはり危機意識をもっと持つような形の何か分析とか、外に対することができないのかなと今思った。

【林委員長】

人口減少への危機意識を持つべきだと。持つようにするために何らかの対策をとということと、書き方も問題ということか。

【久野委員】

どこまでできるか分からない。個別にもっと啓発をしていくことが必要。

【西田地方創生推進室長】

特に中山間地域の高齢化が進行しているところは、様々な施策を展開して、解消していく必要があると思っている。それぞれの取組の中で、やはり危機意識を持ちながら、それに対応するような施策をそれぞれの部署で検討していくことが必要かなと思っている。

また、総合戦略が人口減少対策、地方創生に資する重点的な取組をまとめるものであるが、その中に、人口減少が我々の想像よりさらに加速しているという危機的状況について、見て分かるような表現を入れさせていただくことを検討したいと思っている。

(3) 第12次鳥取市総合計画基本計画の概要について

(4) 第3期鳥取市創生総合戦略の概要について

【西田地方創生推進室長】

資料4を御覧いただきたい。第12次鳥取市総合計画基本計画の概要である。この基本計画は、基本構想を推進するために取り組む施策と目標を明らかにするというものである。

「1. 議論の要点」にまとめているとおり、これまで行政が行ってきた施策を、次の10年間においても継続する必要があるということから、基本目標、政策、基本施策の関係性というものは、第11次総合計画から引き継ごうと考えている。

また、基本計画においては、現計画の構成要素を引き継いだ上で、みんなで取り組む具体的な内容の一例として、31で考えている基本施策それぞれに、市民、地域や事業者、団体等において担う役割を示していこうと考えている。また、レイアウト、デザインを一新し、分かりやすい計画、また、記載内容も平易な表現で分かりやすくしたいと考えている。

「2. 基本計画の骨子」について、このような項目を基本計画に記載していきたい。2番目に重点施策の推進とあるが、重点施策の位置づけとして、第3期創生総合戦略を構成する施策は、第12次総合計画の重点施策とするとしている。

「3. 基本施策の推進」について、この基本施策は基本構想の体系のところで御説明をさせていただいた31の基本施策それぞれについて、2ページの見開きで分かりやすく示し、その2ページの中にこの(1)から(7)までの項目を全て盛り込んでいこうと考えている。(7)が、先ほどお話ししたオール鳥取市による取組ということで、市民、地域、事業者、団体において担う役割をここで明記しようというのが新たな取組である。

続いて、資料5-1を御覧いただきたい。第3期創生総合戦略の概要である。こちらも

要点としてまとめさせていただいているが、現行の国や県の総合戦略に加えて、国が新たに作った新しい地方経済・生活環境創生本部で示されている地方創生2.0の基本的な考え方を踏まえて作成しようとしている。

次の、深刻化する人口減少問題に取り組むために、これまでよりもさらに幅広い分野で地方創生を推進していく、取り組んでいく必要があるということから、総合戦略で対象とする施策、重点施策を拡大しようと考えている。国の地方創生2.0として、分野横断的に実施する事業をリーディングプロジェクトと位置づけ、総合的、一体的な展開を図ろうと考えている。また、この第3期創生総合戦略、それから総合計画実施計画、これをまとめ、第12次総合計画のアクションプランとして策定し、一体的な計画運用により、施策及び事業立案の改善・効率化を図っていきたいと考えている。また、施策の進捗度を図るために数値目標を設定することについては引き続き行っていく。

また、具体的な取組の効果を客観的に検証するため、具体的な取組ごとにKPIを設定した。また、この施策の具体的な取組を進めていくために実施する主な予算事業を総合戦略の中でも示すことで、施策を推進し、KPIの達成を図るために実施する事業であることを分かりやすくし、効率的なPDCAサイクルの実施につなげたいと考えている。それを図示したものが資料5-2になる。左側が第12次総合計画の体系であり、31の基本施策を設定している。そして右側が第3期創生総合戦略である。上のところに記載の、総合計画の取組のうち、人口減少を克服するもの、人口減少社会の中で持続的なまちづくりをしていくために重点的に取り組むものを抽出し、それをアクションプランと呼びたいと考えている。

続いて、2枚目を御覧いただくと、重点施策とリーディングプロジェクトの関係についてとあるが、一番右に例示として、「若者・女性に選ばれるまちづくり」プロジェクトとしている。具体的にはこの重点施策の中から、若者、女性に選ばれるまちづくりに取り組むための施策をまとめ、一つのプロジェクトとしてつくっていこうと考えている。このプロジェクトの内容については、今後検討を進めていこうと考えている。

続いて、資料5-3を御覧いただきたい。先ほどの御説明で、一番上のところ、左側に総合計画とあるが、これが基本施策の見開き2ページのイメージである。その下がアクションプランのイメージである。委員の皆様には毎年、総合戦略の施策評価をしていただいているが、事業の成果が施策の進捗やKPIの達成にどのように貢献したのかが分かりにくいのご意見をいただいている。次期総合戦略（アクションプラン）においては、このア

アクションプランの例示のところで、①の農林水産業を支える多様な人材の育成という一つの施策の中のアのところにKPIとして市内の新規農業担い手の累計と記載し、その下に、そのKPIを達成するために実施する具体的な取組と関連する予算事業を明記することで、この事業の実施結果がKPIの達成にどれだけ貢献したのか分かるようになっている。

総合戦略と総合計画の実施計画を一体的に扱うことは、新たな取組である。この総合戦略と、総合計画の基本計画については、今日お話した概要や骨子に基づいて、各施策の内容の筆耕を進めていきたいと思っている。8月に予定している第3回総合企画委員会で、たたき台をお示しできるのではと考えている。

○議題3・4について質疑応答

【尾坂委員】

先ほど、資料3-2の26ページで、若者が定住するためにどのようなことが有効だと思うかとあるが、1番に挙げられているのが就職・転職支援となっている。そうすると就職・転職支援として市はどんな取組をしているのかということが気になる。これは、最後にあったアクションプランを確認すれば、それに紐づく取組を確認できるようになっているのか。

【西田地方創生推進室長】

基本計画、それからアクションプランも31の個別の施策ごとにつくっていくため、その施策の中にそれぞれ個別の取組を盛り込んでいくことにしている。基本計画はある程度抽象的な表現になるが、具体的な取組は、アクションプランの中でこういった事業を展開していくのかということは示すことにしているため、アクションプランの中で具体的な取組を見ていただけたらと思っている。

【奥谷委員】

人口ビジョンの資料は、単純に統計データを見るための資料なのか。将来展望としてこういうものを目指しますというのはあるが、人口減少を防ぐために今からいろんな施策をする資料のたたき台のような形なのか。もう1点、総合計画や基本施策などいろいろ出ているが、何か鳥取市はこれをとても頑張りますみたいなものがあるか。一応それぞれに目標、施策は細かくあるが、鳥取市はこれを絶対頑張りたい、というようなものがあまり見

えない印象を受けた。鳥取県は、子育て王国鳥取県というような感じでイメージを出している。鳥取市は「すごい！鳥取市」というようなキャッチコピーをされているが、「鳥取市はこれがあるから鳥取市」のようなものが何かあるかをお聞きしたい。

【西田地方創生推進室長】

まずはこの人口ビジョンについて、統計資料はいろんなデータを基に、今後どういったことを重点的に取り組めばよいかということ、創生総合戦略に反映していくための施策を検討する上での基礎的な資料と考えている。人口ビジョンでは、人口を維持していくために、過去の統計データや今後取り組んでいく施策などを含めて展望人口を示している。社人研が示している将来推計に対してどのような施策を展開し、将来推計人口を上回って人口を維持していくかを創生総合戦略（アクションプラン）で盛り込んでいく。

また、鳥取市、これを頑張りますという「これ」のところについてだが、先ほど総合戦略、アクションプランのところで少し御説明したように、総合計画は全ての施策に取り組んでいくものであり、総合戦略はその中で地方創生・人口減少対策に資するような、重点的に取り組むものをまとめるものである。さらに今回考えているのが、その中でも重点的に取り組むものをリーディングプロジェクトとして掲げようとしている。そのプロジェクトのどういったことに取り組むのかについてはこれから検討していく。また、国も地方創生2.0の基本構想をこの夏に出すと言われているため、国の動きやそれに呼応する県の動きを踏まえて、鳥取市としてどういうことに、この令和8年からの5年間、10年間に取り組んでいくのかについては、いろいろと検討していきたい。

【尾坂委員】

抽象的ではあるが、この資料は誰にどう届けて、それを読んだ人にどうしてもらいたいものなのかをお伺いしたい。それによって、内容のバランスなどが変わってくると思う。広く市民にだとは思いますが、誰にどうしてもらえたらいいのかということについて考えをお聞きしたい。

【林委員長】

今日のいろいろな資料について、誰に届けて、どうしてもらいたいのかという思いみたいなものであるか。

【尾坂委員】

抽象的に言うとそういうことだが、実際つくるからには届ける相手がいるわけで、その相手に合わせた内容であるべきだと思う。

【西田地方創生推進室長】

この総合計画については、策定の趣旨のところでは少し触れさせていただいたが、市民や企業、それから団体を含め、行政だけではなく、やはり市全体で取り組んでいく鳥取市の将来に向けてどういったものを目指していくのかを示す計画と考えている。全ての市民に対してということにはなるが、特に若者や子供のような次代を担う方々に伝わるようなものでないといけないと考えているため、分かりやすく、手に取って読んでいただけるような計画というのを考えながらつくっていきたいと思っている。

また、この総合計画については、基本構想もなるべく分かりやすくまとめたいと思っているが、さらに、例えば中学生などにも分かりやすいようなものを、また別につくっていったらと考えている。

【下田委員】

総合計画について、資料4「2. 基本計画の骨子」の3（3）に施策の主な内容は抽象的な表現としていますと記載があり、その後に総合戦略において具体的に示しますと書いてある。我々に関わっているので流れがわかるが、市民の方が総合計画を見られたときに、抽象的に書かれるとどうかと思う。それなら総合戦略を見ればいいのかと思うが、それが1冊の冊子で見やすければ良いものの、おっしゃられたような体系をどう公表して市民の方に見ていただくかによって関心が変わってくるのではないかと。データに関して、高齢者の数字などは医療や介護に関わる方はそれを参考にしながら事業展開していくなど分野によって見る必要があると思う。その流れが分かれば市民の方も使いやすいと思うので、そのあたりが気になる。

【西田地方創生推進室長】

いただいた御意見を踏まえ策定していきたいと考えている。分かりやすくということを考えており、抽象的という表現を使ったが、基本計画の中では取り組むものは何なのかと

いうことをきちんと示したいと思っている。

【竹本委員】

今回は基本構想と人口ビジョン、たたき台ということで、しっかりと聞かせていただいた。これから細かく決まっていくと思うので、それに反することは一切なく、感想として述べさせていただく。

特に5ページのまちの特徴について、類似自治体との比較など非常に食いついたが、こういう偏差値的なものというのは何かすばらしくよく分かるなと思った。類似自治体を平均50として、これを見れば鳥取市の特筆しているところと足りていないところというのがよく分かると思った。それまでの説明も非常によく分かったし、今の鳥取市の現状はどうで、何が問題でということがよく分かった。

大体いつも総合戦略を見ると、文字と数字がすごく多く、よく分からないが、せっかくこういういい分析をされたので、やはり分かりやすいのが一番だと思う。KPIも作らないと駄目だとは思いますが、理解できないものが書かれていたりするため、我々はそこに意見と言われても難しいところがある。ここまで分析されたので、ある程度市民が分かるように、市民が今どういう方向に行っているのかが分かるようにというのが一番いいのではないかと思った。

8ページ、9ページについても非常に分かりやすい。時代の潮流ということで書かれてあり、なるほどなと思ってお聞きした。黄色いところで求められる取組やテーマとして書いてあるのは非常に分かりやすい。ここからさらに細かく細分化されていくと、さらに分かりにくくなっていくので、やはり分かりやすいというのが一番じゃないかと思っている。計画の進捗状況をいつもお見受けすると、最初から難しいものを見せられるとうまくいっているのかいっていないのかがよくわからないような説明が書かれているということになり、わかりにくくなる。このたたき台が私は非常に分かりやすいと思う。

これを参考に、若干細分化はされていくとは思いますが、あまり事細かく、難しくならないようにというのが一番いいのではと思っている。今回の資料は今まで総合企画委員会に出させていただいて、一番食いついた。一番分かりやすく鳥取市の現状とやりたいことというのがよく分かった。今度この第12次総合計画がさらにいいものになるようにと考えている。

【田中（丈）委員】

私も、資料2のたたき台の例えば7ページは、非常に分かりやすいと思った。その次の8、9ページの辺りも、ビジュアル的に分かりやすいなと感じた。ただ、問題というわけではないが、鳥取市の総合計画基本計画、鳥取市創生総合戦略、リーディングプロジェクト、アクションプランなど、いろいろ出てくる。それぞれ役割を持たせてこの資料ができているが、どこかにそれぞれの関係のようなものを書いてあれば良いのではないかと思った。例えば基本構想があって、細かい事業はアクションプランを見れば分かります、のような記載があり、誘導できるといいのかなと思ったため、意見として述べさせていただく。

【前岡委員】

私も非常に分かりやすいなと思って見させていただいた。先ほどしがらみの話が出たが、確かに農業をしていると大事なルールがあるというのも非常に理解できるし、県外から嫁に来た者からすると、顔が見える、近いからこそ子育てはしやすいが、画一的な価値観が結構通っていて、生きにくいこともあると感じることがあるのも正直なところである。

いろんな御意見があるので、事務局の方、分析されるのが大変だろうなと思いながら拝聴した。今回、非常に分かりやすく拝見したので、次回本当に楽しみにしている。頑張っていたきたい。

【久野委員】

何回も同じような意見だが、今日の資料は見やすく分かりやすかった。これから専門的な分野で戦略や計画が出てくると思うが、農業に関して、現場の人が見てある程度納得するような形でお願いしたい。

今70歳前後の人が農業をしている。第11次総合計画にドローンを使えだとか、アシスト付田植機だとか、アシスト付トラクターとか、ロボット草刈り機だとか書いてあるが、それぞれの機械の費用が高い。スマホもまともに使っていない年寄りの方が、そういったデジタルの技術を使った農業、これはどう見ても、試験場のレベルだなと思い、特に我々の狭い耕作地の中ではほぼ考えられないような施策である。

その辺りも、どう計画を進めたらいいのか僕もよくわからないが、現場を見据えるような形、もっと言えば現場に出てどういう状況なのか見てもらって考えてほしい。

【岡委員】

今日頂いた資料、アクションプランであるとか、どれも全て大切なことであって、そもそも年代だったり、住んでいる地域によっては優先度も違うことだが、とても大切なことだと思った。

ただ、市民が直面していることを一言でいうと、人がいないことだと思う。資料３－２、８ページに婚姻件数の減少というのが大きな要因であると書かれているので、今生きている子どもたち、大人たちだけでなく、まだ見ぬ鳥取市民をどう増やしていくか、もっと遡れば、その要因をどうしていくか、どうやって結婚していく人を増やしていくのか、子育てに行くまでがとても大切なことになるのではないかと思った。まだ見ぬ鳥取市民をどう増やしてくかということも考えつつ、このアクションプランに反映していただけたらと思う。

【深澤市長】

長時間にわたり、様々な御意見をいただいたことに心より感謝を申し上げたい。

冒頭に、今はなかなか先が見えない状況にあるということを申し上げたが、視点を変えると、やはりこの基本構想の２０２６年度から１０年間という、非常に鳥取市にとって重要な期間、時期になると思っている。なかなか人口減少というのは歯止めが利かないと考えなければならない部分もある。これは少しでも減少のスピードを遅くしていくということとをまずやっていく必要があるが、そういった中で、未来をどう切り拓いていくのかということで非常に難しい、ある意味、また、鳥取の持っているいろんな潜在力を生かして取り組んでいくということで、この１０年を進めていかなければならないと思っている。

この基本構想は議会の議決案件になるため、取りまとめたときに議会に上程をして議決をいただく。基本計画については５年間、総合計画についても５年のサイクルで見直していくが、１０年先を見据えた取組ということがまず１つある。また、人口ビジョンや創生総合戦略については関係・構造が少し分かりづらいのではないかなというようなことは、我々もよく内部では話しているため、どういう関係にあってどういうものだということを整理し、分かりやすいものにして、またお示しさせていただきたいと思う。

それと、やはり分かりやすくということで、今回、できる限り市民の皆さんに御覧いただきたいと思っている。非常に重要な１０年間になるため、つくりっ放しということにな

らないようにしていきたい。見開きで完結するような形、表現についても、できる限り行政用語のようなものは使わない、分かりやすい形でということに注力をしていきたいと思っている。

久野委員さんから、しがらみのないというのはどうかという御意見をいただいたが、ここにはいろんな問題が含まれているように思っている。やはり地域でのつながりが少し希薄に、ややもするとなりがちだということだが、これが強過ぎると同一の価値観の中で生活しなければならないとか、いわゆるしがらみになってしまう。価値観が多様化していく中、鳥取市として、地域でのそういった確かなつながりというものをどういうふうに考えていくかというところは一つの課題であると考えている。この11ページにも、まちづくりの理念ということで、挑戦・協働・共生・誇りとあるが、この共生の部分について、人口減少、少子高齢化が進展していく中でどのように考えていくかということを、いま一度我々もしっかりと考えていかなければならないと思っている。

人口減少についてもっと危機感を持つべきだということで御意見をいただいたがそのとおりだと思う。国のほうでは静かなる有事だというような表現もされているが、我々は2008年まで、人口がどんどん右肩上がりに増えていくというような経験則があるため、なかなか急激に人口が減少に転じているというのが分かりづらいが、そういった状況にあるということをいま一度、冷静に見ていくことも必要ではないかなと思う。その上で、どうしたら婚姻率が上がっていくか、出生率が上がっていくか、出生数が増えていくかというようなことを施策・政策として打ち出していかなければならないと思っている。

今日いただいた様々な御意見をこのたたき台等に反映をさせながら、また改めて、来月この委員会で御議論いただければと思っている。まだまだ本当の総括はもう少し先になるので、引き続き委員の皆さんにおかれましては、よろしくお願い申し上げたいと思う。

5. その他

【西田地方創生推進室長】

当日資料2ということでお配りさせていただいている、令和7年度スケジュールについて、本日いただいた御意見を踏まえ、基本構想と人口ビジョンについては、修正等を加え、次は素案という形にし、次回の総合企画委員会でまた御協議いただきたいと考えている。

また、基本計画及びアクションプランについては、概要ということでお話しした。今後、

筆耕作業等を進めていき、素案として出来上がるのは8月頃を予定している。その頃に第3回の総合企画委員会を開催予定のため、そこでお示ししたいと思う。また、並行して、議会にも策定状況をその都度報告し、御意見をいただきたいと考えている。

また、市民政策コメントを10月上旬から実施する予定としており、そこでいただいた御意見も踏まえて、11月の下旬に開催予定としている第5回の総合企画委員会で答申案として完成をさせていただきたいと思っている。それをもって、12月上旬に答申というスケジュールで考えている。本年度この総合計画等の策定に並行して、外部評価も委員の皆様をお願いをさせていただくことになるが、どうぞよろしくお願いを申し上げる。

また、5月30日の総合企画委員会の開催の案内ということで、お手元に封筒を置いている。また出欠についても報告をいただければと思っている。

6. 閉会